

平成28年4月15日発行

RIKKO SEKAI No.1070 力行世界 平成28年4月15日発行 (1)

2016年

4月号

年4回発行(1.4.7.10月号)

No.1070

(学法)日本力行会

力行世界

R I K K O S E K A I



さよなら旧園舎(左)

中央は、移植した齢100年のシンボルツリー

こんにちは新園舎(右)

創立1897年1月1日



目次

新園舎紹介.....	2	海外会員の便り 年賀状.....	9
交流サロン.....	3	永田稔『無名録』.....	10
会館生スキー旅行.....	4~5	おはなし会.....	11
りっこう幼稚園だより.....	6~7	小中交流.....	11
もちつき・節分・音楽会・卒園式		事務局だより・人事・ご案内.....	12
日本に来て・会員だより.....	8		

りっこう幼稚園新園舎、 ついに完成!

当会の永年の悲願であった、「りっこう幼稚園新園舎整備プロジェクト」第1期工事である、幼稚園新園舎本舎が去る、3月23日(水)の仮使用検査、3月29日(火)建設施工を担当された立花建設の立ち会いの下、施工主検査を無事終了し、晴れて引き渡しが完了した。

横山設計さんと立花建設(佐々木所長ほか)さんの近隣配慮に努めながらの工期厳守のお陰です。これで力行会が“一日も早く園児と職員の生命が守

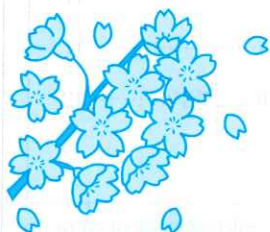
れる新園舎を”という第一次目標が達成できました。近隣の皆様のご理解と関係者のご支援に感謝申し上げます。

また、4月1日(金)からは預かり保育である「ばんだクラス」が初の新園舎での保育を開始、4月8日(金)の進級式及び4月11日(月)には新しい礼拝堂にて入園式が挙行され、新たな園舎での「りっこう幼稚園」の新年度が無事スタートを切った。

新園舎は旧園舎の約2.6倍の広さで、5年前の東日本大震災級の地震にも耐

えるより安心で安全な構造です。これまた、区、都及び国からの多額なご支援を頂いたお陰でもあります。かのような感謝に応える、近隣の、練馬の区民に応える「りっこう幼稚園」として成長し続けて参ります。

なお、「同プロジェクト」については、今後旧園舎の解体及び2期工事としての倉庫建設、園庭整備など11月23日(水)の完成式に向けさらに継続進行中である。



力 行 交 流 サ ロ ン

剣道体験会

去る12月24日(土)力行国際交流サロンで、会館生のアンケートより希望の多い「剣道」を、数年前もお世話頂きました、練馬剣友会さんにご指導をお願いし、「剣道体験会」を開催致しました。

当日は、当会館から徒歩で数分の近隣にある、第7代、第8代、故会長宅に、サロンスタッフの大矢さんが寒い中、同行して下さり、タイ、中国、台湾、ブラジル、スリランカ、ブルネイ出身の総勢15名の会館生と一緒に、向かいました。

会場に到着し、玄関先で故会長ご夫人に皆でご挨拶、順に靴を脱ぎ、お邪魔させて頂き、地下室に自費で造られた道場へ続く、階段を下り、入口で、



剣道体験会(力行会留学生の皆様)

期日:平成28年01月16日

会場:練馬剣友会 剣道場

力行会の留学生の皆様を道場にお迎えして、剣道を体験していただきました。



まず会員の稽古の様子を見学いただきました。



会長より剣道の理念と歴史についてお話がありました。

各自、神棚に向かい一礼。日本人である当方も剣道の道場に入るのは初めてな程、とても貴重な体験をさせて頂きました。

道場に入ると、小学生からご年配の方、又、スコットランドの方と沢山の会員の方々が稽古していらして、その様子を、端に列になり、見学させて頂き、その迫力に圧倒致しました。

お稽古を途中で切り上げて頂き、次に、会長より、剣道の歴史、竹刀などを分かりやすくご説明頂き、剣道の意義について、「面、小手を受けた時に、打ってくれて有り難うと思える、謙虚で素直な心を持つ、社会に役立つ立派な人間を形成するための武道」、「礼に始まり、礼に終わる」など、ご教授頂きました。

その後、模擬刀での日本剣道形を披露して頂き、身も心も引き締まった所で、剣道体験をさせて頂きました。

懇切丁寧なご指導を頂き、真剣なが



模擬刀での日本剣道形を披露しました。



会員の指導のもと基本打ちを体験していただきました。



楽しんで体験していただくことができました。

からも楽しみながら体験する事が出来ました。傍らで撮影、見学していただきましたが、熱気で湯気も見えそうな程でした。その後、ほとんどの会館生の希望に(参加者の一人は、大学で剣道部に所属し、自分の胴着を持っているとの事)答えて頂き、胴着の着付けのお手伝いを優しく親切にして頂き、最後に記念撮影をさせて頂きました。

昨年末、急にお願ひし、事前打ち合わせ、度々のご連絡と、慌ただしくなってしまったのにも関わらず、理事長はじめ、会員の皆様に、大変、手際の良い行程できめ細やかなご配慮も頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

誌面にて、お礼をお伝えさせていただきますのと、今後共、暖かいご支援の程、お願い申し上げます。また、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、練馬剣友会様のHPに記事を掲載させて頂きましたので、ご紹介させていただきます。

(以下、
<http://www.nerimakenyuukai.net/article/432668185.html>
を引用させて頂きました。)



皆さんお上手です!



見事な面の打ち込みでした。最後に剣道着の着装体験をしていただき、皆さんで記念写真を取りました。力行会の皆様、会員の皆様ありがとうございました。

力行会館の冬季恒例行事

会館生スキー旅行

毎年3月の恒例行事の会館生スキーツアーを開催しました。

今年は会館生の参加者が、入寮退寮のタイミングにより少なめ25名。一人一人がより密接に語らい、会館生同士や職員とも親睦を深めながら充実した文化交流を行いました。

それまで話したことのなかった会館生同士が語り合い、日頃会館生に日本語を教えてくださいとボランティアの方々も会館生と語りました。

バス旅行の始まりは、バス内の映画上映でした。映画「キングスマン」、貧しい家庭に育つ青年がひょんなことからシークレットサービスに抜擢され世界を救うアクション映画。笑いあり涙あり、迫力あり、大好評で、あっという間にバスは最初の目的地へ。

ツアー最初の目的地は、群馬県は上野スカイブリッジ。地上90メートルもの高さにある巨大つり橋で、眼下に広がる光景が生む迫力には息を飲みます。長い橋を歩いて渡ると、その先は関東最大と言われる鍾乳洞である不二洞へと続きます。

不二洞に続く長い坂のトンネルを通り、長い回廊を上がると、まるでそこは地獄。浄土の泉から賽の河原を歩き、それは怪しげに名づけられた岩々。40分をかけて地獄をめぐり一汗をかき、次の目的地へ。

到着した先は「横川おぎのや」にて



毎年恒例の景色、霧がかかるように杉が真っ赤に萌えて、鼻炎はピークに

昼食、峠の釜めしに舌鼓。集合写真を撮り、再びベルデ軽井沢に向かいます。

途中に目に映る山々に広がる木は真っ赤に萌え出ずり、しばらくすると宿泊先であるベルデ軽井沢に到着。スキーウェアのサイズ合わせなどをして、大きな体育館でバドミントンやバスケットボール、卓球などでスポーツ交流をしました。

そうこうしているうちに、夕食の時間になりました。毎年恒例の和洋中の豪華バイキング。ローストビーフに刺身、ケーキ、と食べきれないほどの品々。しかしもっとも感動したのは、

軽井沢のきれいな水で炊いた澄んだ味の白米。食後は軽井沢の夜空で星座鑑賞。夜は更けていきました。

翌日には、待望のスキー本番。一時間弱かけてアサマ2000に到着。雪原の世界を、人生で初めて雪を見る者もありましたが、そこは力行会のスキーツアー。インストラクターがつきっきりで教えてくれます。

さて筆者も一年ぶりに滑り出すと、縮みあがった鋼鉄の雪に倒れこみ、名誉の負傷を負いました。今年は軽井沢も降雪が少なかったとのこと。

スキー初級者も見見るうちに上達



し、もう少し滑りたいと思っていたところに終了の時間。ベルデ軽井沢に戻り着替えを行い、集合写真をパチリ。帰路も再び上映会、ハリウッド映画「アントマン」。着ればアリ大に小さくなるスーツで世界を救う。みながお腹を抱えて笑っていました。あっという間にバス時間は過ぎ到着し、無事にス

キーツアーを終えることが出来ました。

多くの関係者の皆様の力添えのもと、スキーツアーは成り立っております。大変お世話になりました。また来年も宜しく願いいたします。

(筆：山本晃一郎)



学校法人 **りっこう幼稚園** だより**おもちつき大会**

ゆりぐみ 林 千尋

3学期が始まりすぐに、おもちつき大会が行われました。前日におもちの本を読み、おちはもち米を蒸かして出来ること、杵を使ってみんなでつくこと等を知りイメージを膨らませて当日を迎えました。

当日の朝、杵を持ち振り下ろす真似



をし、気合い充分でおもちつきに臨みました。臼を囲むようにしてみんなで椅子に座り、始めにもち米を蒸かした、ふかしを頂きました。もぐもぐしていると「口の中でおもちになった!」と嬉しそうな声が聞こえてきました。最初にお手伝いに来てくれたお父さんたちがおもちをついてくれます。杵を振り下ろす迫力に自然と「がんばれ! がんばれ!」と声援が沸き上がりました。

そしていよいよ子どもたちの番。お友だちと2人組になり交互に10回つきます。周りにいるお友だちから「1、2、3……」と掛け声があがり、その声援を受け力を合わせておもちをつきました。ついたおもちをお手伝いのお母さんたちがすぐにきなこ醤油に味付け



をしてくれ、つきたてのおもちを頂きました。「おいしい!」「やわらかい!」おかわりは1つずつで、お部屋でおもち屋さんをしてあげているお母さんたちに「きなこ一つください。」と、自分で注文をします。「これで〇個だよ」等、友だちとの会話も弾みます。子どもたちのおかわりは止まらず、見ていて心配になる程でした。日本の伝統的な行事を通して、友だちと力を合わせておもちをつく楽しさ、一緒に食べる楽しさを味わうことが出来ました。

**まめまき**

ももぐみ 辻 恵美子

2月3日の節分に豆まきを行いました。日常の保育の中で絵本や遊びを通して身近な存在の鬼ですが、子どもたちにとって節分は楽しみなような怖いような特別な一日でもある様です。前日、先生から節分の話を聞き、子どもたちはソワソワドキドキ。心の中にどんな鬼が住んでいるのか話し合ったり、鬼の出る絵本を読み返したりと大さわぎです。当日の朝、ちょっぴり不安そうな子どもたちでしたが、み

んなで歳の数だけお豆を食べると「おいしいね」「もっと食べたい」とカリカリで香ばしいお豆に皆元気になり、力がわいてくる様でした。園庭に出てみると、鬼と戦うための新聞紙の剣を持った年長組や桃太郎のハチ巻で気合い十分の年少組。「今年は泣かないぞ。鳥小屋の後ろなら来ないかな?」と友だちと作戦をたてる年中組…とそれぞれ心の鬼を待ちながら、元気に豆まきをしました。「鬼は外! 福は内!」と子どもたちの声が空に響くと六匹の鬼が続々と登場。一生懸命豆を投げる子、怖さに泣き出す子、遊具の後ろに隠れる子…。泣き声が園庭に広がりました。一方、年長の子もたちは剣で応戦、全速力で走る鬼に素早く逃げまわる姿もありました。鬼と戦う勇ましい姿に鬼達は完敗。みんな喜び合いました。少し怖かったけれ



ど心の鬼も退治して涙も止まり笑顔に戻った子どもたち。みんなと一緒に体験したこの一日が、ひとつの経験として心も体もたくましく成長する事を願っています。





音楽会

すみれぐみ 青木 寛子

2月5日、寒さの中に太陽の日差しが心地良く感じられた日に音楽会を行いました。当日は風邪やインフルエンザの流行により出席できなかった子どもも多数いましたが、「〇〇ちゃんの方まで私たちが歌おう!」「お休みのお友だちにも届くくらいが良いよね!」と頼もしい声が聞かれ、これまでお友だちと心を合わせ一緒に歩んできた道のりを感じました。各学年、歌や賛美歌に加え、もも組はカスタネットを使っての真似っこあそびやリズムあそび、すみれ組はカスタネット、すず、木琴、ピアノを使っての合奏、ゆり組はそれに加えて打楽器やハンドベル、グロッケンなど様々な楽器を使って表現活動を楽しんでいました。段々と友だちと音を合わせる心地良さを感じられるようになり、お家の方へ招待状作りを行うと、「可愛く作る

う!」「お客さん喜んでくれるかな?」と心を込めて製作する姿があり音楽会に期待の気持ちが高まる様子もありました。本番が近づくと「ちょっとドキドキしちゃうなあ。」と期待と不安で溢れていた子どもたちでしたが、「みんなで気持ち良く歌いたい!」「アンコールをもらえるように頑張る!」と日々の思いが糧となり、当日はそれぞ

れが力を出しきって見事に大勢のお客さんから大きな拍手とアンコールを頂くことができました。「楽しかったね!」「来年は何歌うんだろう?」今回の行事でまた一つ自信をつけられたと思います。これからも友だちと心を一つに様々なことに挑戦していってほしいです。



卒園式

ゆりぐみ 内田 麻衣

3月18日、暖かく穏やかな陽の光の中で卒園式を行いました。「おはようございます!」の元気な挨拶と共に登園する子どもたちは、大好きな友だちとの会話に花を咲かせ進学の期待や卒園の喜び、少しの寂しさで胸がいっぱいの様子でした。チャペルへ入場すると、たくさんの拍手に嬉しそうに、また緊張しながら席につきました。尾山牧師のお祈りから始まり、園歌、園讃美歌、そして保育証書授与。担任から呼ばれると今までの成長に自信をもった様な頼もしい返事、園長先生と目が合う瞬間の誇らしげな表情。すっかりお兄さんお姉さんになった110名の子どもたちの姿に、胸が熱くなる素敵な一時でした。すみれぐみから送る言葉、ゆりぐみからお別れの言葉、そして歌と共にお家の方へ感謝の気持ちを伝えました。ゆりぐみみんなで考えた、送り迎えや美味しいお弁当・優しく、ずっ

と応援してくれた…たくさんの「ありがとう」はしっかり届いたようです。讃美歌を歌い、涙と笑顔、そして感動いっぱいのお式が終わりました。

りっこう幼稚園ですごした1日1日、笑って泣いて、けんかして仲直り

して、様々なことに挑戦してきた子どもたち。その経験と、それぞれの場所で輝いてきたことを自信をもって、これからもたくさんの人と出会い、愛し愛されながら神様の見守りの中で一歩ずつ歩んでいけるよう願っています。





日本に来て

原タイス

りっこう幼稚園にブラジル研修生として原タイスさおりさんが来日しました。一ヶ月たった日本生活の所感を書いて頂きました。

日本への研修が決まった時久しぶりに日本へ行ける嬉しさと、どんな一年になるんだろうというわくわくドキドキが止まりませんでした。

日本へ来る前は余裕だと思っていたのですがこっちにいざ来ると親と離れて過ごすのも初めてで急に生活面で不安とホームシックになってしまい毎日夜は泣いてばかり、幼稚園の仕事もブラジルにいたときとまったく違うので不安だらけで心配になりました。ですが、力行幼稚園の先生方はみんな素敵な方ばかりで初めてサプライズをもらった時、本当に嬉しかったしまさかこんな経験ができるなんて思いもしませんでした。生活を心配してくれる先生も、体調を心配してくれる先生も、優しく教えてくれる先生も、いろんな話をしてくれる先生もいて、暖かい場

所だなんて感じました。

私は一ヶ月半も1くみの子供たちと先生と過ごしてきました。慣れてきたブラジルの幼稚園と違って初めての子供ばかりなので今までどうやって子供に接してきたんだろうと急に分からなくなりました。だけど子供から「一緒に遊ぼう!」とか話しかけてくれる子が増えていって、外遊びの時には違うクラスの子も「初めまして!」と挨拶してくれたり子供たちのおかげで過ごしやすい日々になりました。外遊びは寒くてつらいですが、子供たちと追いかけてっこをしたり木登りしたり子供が笑ったりしてるのを見ると体も温かくなるし、心も温かくなりました。

終業式の日、もも1くみから絵のプレゼントをもらった時、「ああ、研修に来てよかったな」と心から思いました。終業式の最後のもも1で過ごす時間も、卒園式の時も私もこれからいっぱい知らないことを経験して同じ感動を味わえるんだなと思うとこれからがものすごく楽しみです。

もも1で過ごすにあたって、これをブラジルで活かしたらよくなりそうだとか真似したいとかいろんなことをノートに毎日書きました。短い時間の保育でこれだけたくさんできるならブラジルの保育でも子供たちには日本の文化やイベントをたくさん知って学んでほしい、私のひとつの夢でもあります。

子供たちのびのび遊べる部屋、子供たちが毎日やるお当番係り、お誕生日の子へのかんむり、子供たちが好きなものを好きなだけ作れるように材料が揃っている、園庭の広さ、砂、毎日やる習慣、体操、行事、などまだまだたくさんあります。これらがブラジルの幼稚園でもできるかっていわれたら難しいですがなるべく日本に近い幼稚園ができれば素敵だなんて思います。それを伝えることができればいいなとも思いました。

自分の将来の夢はまだ決めていません、この一年でやりたい仕事を決めていきたいと思っています。ただ、日本の文化などをブラジルの子供たちに先生としてじゃなくても伝えることも一つの夢です。

まだまだこの研修で学ぶことがたくさんあると思うので経験して楽しんで素敵な一年になるようにしたいです。



当会の個人宛に届きました一役員の近況報告です。これを機に会員や関係者の

近況報告を掲載し続けて参ります。日々の生活風景、感想や随想を編集部までご送付願います。初回の執筆者となりましたのは、当会前副理事長、現評議員兼未来戦略グループ委員の佐藤治子さんです。(H27年10月20日記)

記録的猛暑が去り、彼岸花が咲き、金木犀が香る長月最終週に、十五夜・スーパームーン・十六夜・立待月と煌々たる月の光を堪能、高く澄んだ青空の下、秋桜が揺れる爽やかな気候に恵まれ、十三夜も期待できそうです。

過ぎた夏、戦後70年の節目に次女制作の「戦場に輝くベガ」が各地で上映され、毎日新聞や、「NHKおはよう日本」他で取り上げられました。また、

福島の高原リゾート滞在中にこれが最後と尾瀬を歩き、閉館するホテルオークラ〜都内の庭園美術館を巡り、碗の中の宇宙“曜変天目”を観た至福の思い出もあります。

9月は兄の誕生日・義兄の傘寿・姪夫妻の還暦祝を機に「母方親族の集い」を企画。東京単身赴任遊学を含む1都7県12市町から4世代が高松に集合しました。

第一部サンポートホール高松にてspace fantasy live (高橋真理子 アルリ舎) 快適とは言えない狭い会場とパイプ椅子で1時間余り、市長と旧友を含む2歳〜85歳の男女多世代40人が静かに視聴した驚きと感激感動感謝。

第二部ホテルクレメント高松の20階バンケットマールにて会食。兄がルーツを語り乾杯から一本締めまで3時間余り、穏やかで和やかな静かに落ち着いた雰囲気裡に終始。私のみクレメントに連泊。帰宅後も高松に魂を置

いてきたような。

シルバーウィーク。早生まれだからまだのつもりが市から祝い金が届き、年度括りで後期高齢者に。市長も出席の祝会で、ナイスミドルの自治会長の「気力体力財力三拍子揃っているこの地区の叡智を集めて起業しよう!」に意気投合。地域介護予防活動の一助にも。

何でも先送りしない。そのうちと spite 「次」はない、叔母の言葉を思い起こす。美術展で受賞した友人を若い友達と上野グリンテラスで祝い、新横浜へ駆けつけて真理子と心魂プロジェクトのコラボ「プラネタリウム ミュージカル」。有栖川公園の樹木林を歩き、広尾ガーデンで満足の美酒美味の後バイオリンコンサートへ。表現者達の素晴らしさ! 身近な人達に、出来る限りのエールを送っていきたい。

海外会員の便り 年賀状

力行会の先生の皆さま

長い間、お世話になり
により感謝申し上げます♡

皆さま どうもお元気で (♡)/

本年にじょうもありかうございました！

KanWalester
12月15日



お知らせ致します
ニッパル 元旦

小竹由紀
ブラジル会員

Com os mais sinceros votos
de um
Feliz Natal
e
Próspero Ano Novo

2015
年十月十日

(キユーバ会員)

真鍋
繁子

十二月のほかに
いまだとりに
した。来たる
発展の年と
又2016年
も皆様の
ご指導の
下で
折り返し
の年です
ご指導の
下で
折り返し
の年です

Que a Paz e a Harmonia irradiem de
nossos corações neste Natal e no Ano Novo
que se aproxima.

Boas Festas

Associação Harmonia de Educação e Cultura

Diretoria

Tadayosi Wada - Presidente

謹んで新年のお慶びを申し上げます

昨年は日伯の外交樹立120周年を迎え、
これは以上に両国間の強いつながりが結
ばれた1年となりました。
今年がまた気持ちを新たに、日伯の文化
・スポーツ交流の発展のために精神します。
今後とも御指導、御鞭撻の程、よろしく
お願い申し上げます。皆様のご指導の御
活躍と多幸を心より祈ります。

2016年 元旦
ブラジル教育文化協会
会長 和田 忠司
理事 和泉 月

賀春

25-12-2015

1-2016

永田会長、南条副会長、
柳田会長、松尾会長、高橋副会長、
ブラジル支部、1954年7月30日神戸支部
10人の代田正二、90才
青年時組、藤原、美代子、81才
オニエ、1才(1994年留学生一年)
2才 - 荻原、眼科医、バウルネに卒業中(女子)
3才 - 真由美、眼科医、バウルネに卒業中(男子、女子)
4才 - 荻原、眼科医、バウルネに卒業中(男子、女子)

謹んで新年を祝し、
日本力行会の理事長初め
会に御勤みの皆様、留学生
研修生の皆様、御健康を

Feliz Natal e
Próspero Ano Novo

新年を喜び、
会に御勤みの程を祈り、
ブラジル支部への御健康を
御祈申し上げます。

計 7人

学生時、38才(43才)力行会に入会、大変お世話に
なり、10月、川崎、男と申します。入会生活
一年、一生懸命にがんばって、今年、昨年
九月、他界致しました。四年間、楽しく、大勢
方と遊ばせていただきました。日々、このように
話して、お世話に。
心、御礼を申し上げます。静岡会員
力行会、より、静岡会員
申します。

静岡会員
(石川洋子より)

永田稠『無名録』(明治三四・三五年) 内容目録

日本力行会関係資料調査グループ*1

永田稠^{しげし}は、財団法人日本力行会の第二代会長として、日本の移民事業振興に生涯取り組んだ人物である。日本力行会は現在は学校法人となり、移民事業にはかかわっていないが、同機関には現在も移民資料室があり、同会の資料の保存、公開が行われている。1897(明治30)年に島貫兵太夫は苦学生救済のための機関である東京労働会を設立する。この東京労働会を母体として生まれた日本力行会は、移民教育や海外情報の提供といった多様な活動を展開する。同会については百年史をはじめとした様々な刊行物があり、また、同会の発行した機関誌『救済』『力行世界』等についても復刻・刊行がなされている*2。

日本力行会の所蔵資料については目録も作成されているが、いまだ整理途上にある貴重な資料群も少なく無い。本調査グループが調査、翻刻、目録作成にあたった『無名録』は、そうした未整理資料群に含まれていたものである。永田稠による『無名録』は、主に随想録のような形式で書かれた、未刊行の自筆資料である。九冊分のノートによって構成されている。1901(明治34)年から1904(明治37)年までに記された17冊のノートよりなり、このうち、1冊目から10冊目の内容目録、翻刻を調査グループで行った。以降の部分については次号で補うこととしたい。

永田稠が島貫兵太夫の後に、日本力行会の会長を継ぐのは1914(大正3)年のことである。永田は1881(明治14)年に長野県諏訪郡豊平村^{しもふつた}下古田(現在の茅野市)で生まれ、諏訪郡の実科中学校を卒業し、1901(明治34)年に早稲田大学に入学するが中退、長野県での代用教員となり、その後、北海道で開墾事業にあたっていた兄のもとへ移る。翌1902(明治35)年入営し、日

露戦争にも従軍することとなる。

永田稠は1907(明治40)年に日本力行会に入会し、渡米する。島貫が没した頃には在米日本人中央農会の中心的な人物となっていた。日本力行会の会長となって以降の永田の事業やその言行については、数多くの刊行物によって知ることができる。永田自身も会の事業の歴史を含めた多くの著述をもっている*3。しかし、それ以前の彼の活動、特に入会、渡米よりも前について、永田自身のこれら著述からはほとんどうかがうことができない。その意味で、今回調査にあたった記録は、彼が早稲田大学を中退してから入営するまでの間を知ることができる、しかも永田自身の記述による資料である。

『無名録』の内容については、先述したように随想や評論などを含んでおり、特に教育・学校についての論や諏訪地域の風俗、文化について、自身の経験をふまえての記述が豊富に含まれている。これら多様な情報は、教育史、移民史、地域史等で有用な情報を含んでおり、様々な分野で生かす可能性が考えられるが、ここではそうした点のいくつかについて若干補足的に記しておくこととしたい。

永田稠は、自身米国へとやがて移民し、さらには大正期以降、移民振興事業に深く関わっていく。移民事業の意義、価値についての豊富な情報を発信し、さらには長野県教育界と連携して学校教育の移民教育とを結びつけていくことになる。長野県での地域教育に携わっていた若き日の永田の著述類からは、後に移民という行為の意義、価値に結びついていく軌跡、あるいはそこに至る思想的な基盤をとらえていくことが可能であろう。それはまた、明治初期から立志や立身・自助思想に強く裏打ちされた多くの青年達が、海

外へと眼を向け、移民・植民へと向かっていく軌跡を考えていくうえでの重要な事例ともなろう。

そうした移民史、教育史における観点以外にも、例えば地域の文化、教育史という観点からのこの記録の活用も考えられる。旧制の諏訪実科中学校は、現在の諏訪清陵高等学校にあたる。1893(明治28)年に諏訪郡立実科中学校として創設されているが、永田はこの最初期の卒業生(第二期)にあたる。在学していたその目で、その頃の諏訪中学校の風俗、状況について、かなり辛辣な意見も交えつつ詳細に論じている。当時の同中学校の教育事情や教育環境について具体的に分かる資料となってもいる。

また、それ以外にも、文学教材の可否や自身での創作等、当時の文学・小説観や教材観をうかがう点からも興味深い。当時永田らが発刊していた『諏訪青年』という地方誌についても創刊事情について詳しく記されており、地域のリテラシーや文学環境と東京でのそれを比較、検討していくことも可能であろう。

さて、『無名録』自体は分量も多く、翻刻本文自体は約15万字に及ぶものであり、内容は歌、随想、評論、創作まで多様な形式を含んでいる。現在では読みづらい部分も多いため、全体を翻刻し、またその概要を知ることができるよう、内容の細目を作ることにした。本目録は、その内容についての細目である。作成には岩崎晴彦、加藤晴奈、後藤美咲、原みなど、杉江泰樹、土屋遙一郎、西尾泰貴、本橋理沙、和田敦彦の9名が、それぞれ一冊ずつ担当する形で翻刻、目録作成を行った。翻刻自体も、いずれは何らかの形で公開していく方策を考えていきたい。

*1 日本力行会関係資料調査グループ(岩崎晴彦、加藤晴奈、後藤美咲、原みなど、杉江泰樹、土屋遙一郎、西尾泰貴、本橋理沙、和田敦彦)。

*2 日本力行会創立百周年記念事業実行委員会記念誌編『日本力行会百年の軌跡』(日本力行会、1997年1月)、『力行世界』『力行』『力行網』『渡米新報』解説・総目次・索引(不二出版、2013年6月)参照。

*3 永田稠『力行会七十年物語』(日本力行会印刷部、1966年11月)、同『信州人の海外発展』(日本力行会印刷部、1973年2月)等。

地 域 交 流

力行会館生ブラジル代表の草場マリアナです。去る1月27日に区立小竹図書館のお話し会に参加させていただきました。私は本と読書がとても好きで、以前から、お話し会には参加をしたいな、と思っていました。

今回、読ませていただいた本は「おさるのおいかけっこ」。今年はサル年ということもあって、とてもタイム



リーなテーマの絵本でした。小竹図書館のお姉さんが日本語で読んだ後に、私が続けて英語で読ませていただきました。子供は皆、真剣に耳を傾けてくれて、読み終えた後の質問コーナーでは「どんな動物が好きですか?」とか、「母国語はなんですか?」などと、私自身にも興味を持ってくれた様で、とても嬉しかったです。

お話し会も終わり、後片付けをしていたところ、とても嬉しいサプライズがありました!参加していた男の子に、ポルトガル語で歌を歌うから聞いてほしい、と声を掛けられました。歌を披露してくれたあとは、少し照れていましたが、私が歌をちゃんと理解したことに、嬉しそうな表情をしていました。その子は、インターネットで色



んな言語の曲を聞いて覚えたり、世界中の国について、いつも調べているんだそうです。小さい頃から、色々な国について興味を持っていて驚きです。

また、機会があれば参加したいと思っています。小竹図書館、そして、力行会の事務所の方々、ありがとうございました。

草場マリアナ

中村小学校・交流会

力行会館生ブラジル代表の草場マリアナです。去る2月19日に練馬区立中村小学校の国際理解講座に、中国代表の賀嬌さん、スリランカ出身の会館生チャミラさん、同じブラジル代表のレオナルドさん、そして事務局員の山本さんと一緒に参加させていただきました。

スリランカ、ブラジル、中国について、中村小学校の4年生の子供たちにお話しをさせていただきました。みんなは真剣に聞いてくれて、休憩時間の間、そして紹介が終わったあとも、三つの国について沢山の質問をしてくれました。

お国紹介の後は、みんなでブラジルの遊びPega Bandeira (旗とり) とい

うゲームをしました。敵の陣地を超えた先にある旗(ハンカチ)を自分の陣地まで持って帰ってくる遊びです。ルールは、敵の陣地内で相手チームにタッチをされたら、その場で固まり、自分チームにタッチをされたら、また動く事ができる、という簡単なものです。しかし、旗を投げるのはルール違反。皆は元気いっぱい走り回り、結果は引き分けでしたが、すごく楽しんできた様でした。

体育館で遊んだあとは、給食を子供たちと一緒に教室で頂きました。レオナルド君は1組、私は2組、そして賀嬌さんとチャミラさんは3組へ行きました。献立はご飯、お味噌汁、切干大根、鯖の味噌煮、そして牛乳でした。どれ

もすごく美味しかったです。鯖の味噌煮が大好きなので、一段と嬉しかったです。食事の間にも、皆が話しかけてくれて、とても楽しかったです。

「お昼休みも一緒に遊ぼう!」と誘ってくれましたが、お別れの時間になってしまいました。子供たちは、私たちと一緒に門まで、ついて来てくれました。名残惜しい気持ちでしたが、笑顔で見送ってくれました。

私は日本の小・中学校に通っていたので、今回の小学校訪問では、とても懐かしい気持ちでいっぱいになりました。他の会館生も楽しい経験になったと思います。

中村小学校の子供たち、職員の方々、そして、力行会の事務所の方々、ありがとうございました。

草場マリアナ



委嘱および人事異動

・職員 富澤 佐知子 殿
定年とする。

平成二十八年三月三十一日付

学校法人 日本力行会
理事長 村上 悦 榮

・技能職員 幸 脇 一 英 殿
技能職員とし、事務局長兼国際事業部長兼総務部長を委嘱する。

・技能職員 中 島 良 造 殿
技能職員とし、幼稚園事業部長として園長を委嘱する。
但し、園長業務に加え、幼稚園の全業務の引継ぎとする。

説 寿 弘 殿
学校法人日本力行会の技能職員とし、幼稚園副園長を委嘱する。

・課長心得 田 中 直 樹 殿
総務部課長兼国際事業部課長を命ず。

・筆頭主任代行 前 嶋 千佳子 殿
幼稚園筆頭主任を命ず。

・技能職員 岸 島 由 典 殿
技能職員として、登降園バスの運転及び幼稚園の支援業務を委嘱する。

・技能職員 富澤 佐知子 殿
学校法人日本力行会の技能職員とし、保育業務を委嘱する。

・準職員 樋 川 恵 子 殿
準職員として、保育業務を委嘱する。

・支援職員 大 高 美奈子 殿
支援職員として保育業務を委嘱する。
鈴木 優 菜 殿

学校法人日本力行会の職員とする。試用期間は幼稚園配属を前提に三ヶ月間とする。

眞 壁 麻 衣 殿
学校法人日本力行会の支援職員とし、保育業務を委嘱する。

富澤 史 乃 殿
学校法人日本力行会の支援職員とし、保育業務を委嘱する。

原 タイス さおり 殿
学校法人日本力行会の平成28年度研修生とし、「りっこう幼稚園」の所属とする。

新明 ジュニファー チェリー 殿
学校法人日本力行会の平成28年度研修生とし、「りっこう幼稚園」の所属とする。

平成二十八年四月一日

学校法人 日本力行会
理事長 村上 悦 榮

日本力行会機関紙「力行世界」
定期購読会員ご加入のお願い

拝啓 春風駘蕩の候 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会はお陰様で創立119年を迎えました。「日本民族の霊肉救済」を旗印に、苦学生及び渡米希望者に支援や便宜を与え、さらに青年の移住斡旋や現地教育にも傾注し、北米、中南米、東南アジア、旧満州へ約3万人の移住者を送り出し今日に至っております。

創立80周年には、記念事業として創立理念をさらに発展させ、“世界と日本の架け橋となる人材育成”“海外同胞との連携強化”などの実現を目標に、留学生会館・「国際交流会館」を新設し、各国からの留学生を迎え、日常生活を通して日本文化を習得しながら修学や研究に励めるような環境づくりと支援活動を続けて参りました。

ご賢察の通り、この約40年間に円価格の激変などの日本経済及び世界的位置づけの変容により来日に感謝すべき時代を迎えた今、留学生の来日数や留学目的も変わり、公益の法人といたしまして資力不足ながらも、関係先との諸問題の解決や支援活動の強化や充実にも拘らず、在日留学生の生活環境はまだまだ十分と申し上げる状況ではございません。

つきましては、より積極的な国際交流の継続をご理解頂き、当会活動理解の為、『日本力行会機関紙「力行世界」定期購読会員』のご加入を頂きたくお願い申し上げます。また、ご友人や国際交流にご関心を抱かれている方々へのご紹介も合わせてお願いいたします。

末筆に成りましたが各位の益々のご健勝と弥栄を祈念いたしております。敬具

『日本力行会機関紙「力行世界」定期購読会員』制度についてのお知らせ

個人会員 年額一口 ￥3,000円

法人会員 年額一口 ￥20,000円

《口数の制限はございません。会員期間＝平成28年4月1日～平成29年3月31日》

(会員特典)

★各種講演会などの行事のご案内

★機関誌「力行世界」のお届け

★ゲストルームの優待宿泊利用（一泊4,000円を500円引き年間7泊まで）

(ご送金方法)

同封の郵便振替用紙をご利用ください。

(口座番号が変更となっております。ご注意ください!)

平成28年4月15日発行
年4回発行(1・4・7・10月号)
発行
(学法)日本力行会

〒176-0004

東京都練馬区小竹町2-43-12

電話 03-3972-1151(代)

FAX. 03-3972-1264

E-MAIL: rikko@rikkokai.or.jp

ホームページ

<http://www.rikkokai.or.jp>